

事業名	やまなしブランド推進事業費		
細事業名	ジュエリーやまなし活性化事業費	財務コード	652712
担当部課室	産業労働 部 地域産業振興 課 産業振興 担当 (内線)		4711

事業の概要

実施期間	始期 H22 年度 ~ 終期 年度			
実施主体	補助(輝きの祭典実行委員会)			
事業の目的	<table border="1"> <tr> <td>だれ(何)を対象に 県内宝飾企業等(技術力の高い作品)</td> <td>その対象をどのような状態にして 産地を支える高い技術力や産地ブランドのPRが行われている</td> <td>結果、何に結びつけるのか ジュエリー産地山梨の認知度向上とブランドの確立</td> </tr> </table>	だれ(何)を対象に 県内宝飾企業等(技術力の高い作品)	その対象をどのような状態にして 産地を支える高い技術力や産地ブランドのPRが行われている	結果、何に結びつけるのか ジュエリー産地山梨の認知度向上とブランドの確立
だれ(何)を対象に 県内宝飾企業等(技術力の高い作品)	その対象をどのような状態にして 産地を支える高い技術力や産地ブランドのPRが行われている	結果、何に結びつけるのか ジュエリー産地山梨の認知度向上とブランドの確立		
事業の内容 主にH26年度	<p>輝きの祭典実行委員会は、山梨県水晶宝飾協同組合、甲府商工会議所、やまなし観光推進機構などで組織されている。ジュエリー産地山梨の認知度向上とブランドを確立するためには、産地を支える高い技術力を効果的にPRすることが必要となる。</p> <p>「輝きの祭典」は、国内3大ジュエリー展示会の一つであり、地方の産地が主催する国内唯一の展示会でもある。また信玄公祭りにあわせて開催されるため、県外や国外からの来訪者に対しても広く効果的にPRできることから、事業の実施に必要な経費の一部を補助する。</p> <p>・補助先: 輝きの祭典実行委員会 ・補助率: 1/2 ・補助対象事業: 「輝きの祭典」における、産地の歴史の展示、研磨宝飾加工技術等の実演、ジュエリーマスターの作品展示、海外プレス等の招へい H26年度開催: 大宝飾展(H26年4月5日、6日直販主体)、甲府ジュエリーフェア(H26年4月2日、3日商談主体)</p>			
根拠法令等	ジュエリーやまなし活性化事業費補助金交付要綱			

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	25年度	26年度		27年度	28年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 甲府ジュエリーフェア 出展社数	89社	90社	90社	90社	90社	目標設定の考え方 ジュエリー産地をPRする出展社数とし、過去3カ年の実績平均とした。 データの出典等 実績報告書
活動指標達成率 (実績値/目標値)	100.0 %					
成果指標 甲府ジュエリーフェア 来場者数	1,987人	1,900人	1,865人	1,900人	1,900人	目標設定の考え方 過去3カ年の実績平均とした。 データの出典等 実績報告書
成果指標達成率 (実績値/目標値)	98.2 %					
決算額又は予算額 (千円) うち一財額	3,600	3,320	3,354	3,224	3,224	成果指標によらない成果 ジュエリーは、ワイン、織物と並び、県の3大地場産業の一つであり、山梨県は全国の貴金属製品出荷額のうち約30%のシェアを誇っている。 本事業を通じ、業界団体である山梨県水晶宝飾協同組合や甲府商工会議所と連携が図られ、ジュエリー産業の振興という共通の目的を達成する上で重要な役割を果たしている。
所要時間(直接分)	3 時間	3 時間	3 時間	3 時間	3 時間	
所要時間(間接分)	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間	
所要時間計	3 時間	3 時間	3 時間	3 時間	3 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,048円×所要時間)	6	6	6	6	6	

これまでの事業の見直し・改善状況

--

活動量と成果の判断(平成26年度の業績評価)

(1)事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H26年度活動指標の達成率		
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2)事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること
H26年度成果指標の達成率		パイヤー向けの甲府ジュエリーフェアについては、前年度に比べ微減となったが、一般消費者向けの大宝飾展については、H26年度から会場をやまなしプラザに変更したことにより、信玄公祭りの観光客等にもPRするとともに、ジュエリーミュージアムとも連携を図り中心市街地のにぎわい創出にも資するものになっている。また、本事業を通し、業界団体である山梨県水晶宝飾協同組合や甲府商工会議所とも連携が図られ、ジュエリー産業の振興という共通の目的を達成する上で重要な役割を果たしている。このことから、ジュエリー産地山梨を効果的にPRしブランドの確立にも貢献しており、意図した成果をほぼ上げている。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成28年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
無		

・「以外の判断項目」の欄
 a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
 i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成28年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
現行どおり	

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
 ・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること